

ステータス:	終了	開始日:	2011/05/09
優先度:	通常	期日:	2011/05/12
担当者:		進捗 %:	100%
カテゴリ:		予定工数:	0.00時間
対象バージョン:		作業時間の記録:	0.00時間
説明			
状況(2011.05.12)			
V5.92にて対処済み。  (原因) V5.23からV5.24へのマイナーバージョンアップにてシーク高速化処理を施した。 その開発途上でシークポイントまでテキスト表示が存在しない場合に フォント切り替えを実施する処理を組み込んだが、結果的にそれが不要になるシーケンスに落ち着いた。 しかるに、開発途上でのフォント切り替え処置の削除をし忘れていた。  (対処) フォント切り替え処置の削除を行った。			
概要(2011.05.09)			
HEADタグのフォントの件です。 通常HEADタグは、それ以前に書かれたFONTタグで指定されたフォントで描画されると思います。 ところが、HEADタグの後にFONTタグがある場合、再生位置がそのFONTタグの位置の後にある状態で Muse のウィンドウを他のウィンドウで隠し、再び Muse のウィンドウを表示させると、 HEADタグより後で指定したフォントで再描画されてしまいます。 Windows XP 上で確認しました。			
関連するチケット:			
関連している Release # 147: Muse V5.91		終了	2011/05/07